

★心に残っているあのことこのこと◆



「良い塩梅」

(梅にちなんだ2月下旬の文章)

2月下旬となると、春の訪れを思わせる暖かさが静かに広がってくる。我が家の狭い庭に梅の木が1本。頬紅のようなつぼみから、真っ白い花がほころびはじめた。

「暖ったかで、良いあんばいですね」と、往診患者さんのパーキンソン病Dさん。

いつもより体の動きが良く、ご自分のベットに座ってニコニコされている。色白美人の頬が、ぽっと薄ピンク色に染まって、まるで梅の花のようだ。

「あんばい”って、何種類も漢字があるんですね」、私の説明を受けて、愛情細やかな淡々とした介護の日々を過ごされておられるご主人。

「広辞苑には、塩梅 按排 案配、按配 など」とすぐ辞書を引かれる。

以前、私が往診していて、今、特別養護老人ホームに入っておられるEさんから、年賀状の返事を頂いた。しっかりとした字で、近況が書かれている。

『クリニックの新しい在宅の展開には、よい案配でございます』と。『図書館にはほとんど毎日のようにまいっております。今年の誕生日で 96歳に相成ります』とは、誠に良い塩梅でございますね。

<クリニックふれあい早稲田 大場敏明>

◎ 私たちの年末年始 ◎

グループホーム「アカシアの家」の年末年始

年越しそばならぬ年越しうどん！
2010年の大晦日、わせだ健康友の会の方々がうどんを打ちに来て下さいました。元々うどん打ちの名人、入居者さんのSさんも本領発揮！



「いただきまーす！」協力して作った手打ちうどん、美味しさも格別です。友の会の方、年末のお忙しいところ本当にありがとうございました。

そして夜。目をこすりながら紅白を見て・・・

現在 22 時。このあと結構遅くまで粘りました。明日は寝正月決定？

2011 年の幕開け！のんびり起きてお節をいただきました。

自分で着物を着られる、昨日のうどん打ちから大活躍のSさん。正月ですもんね！

はいっ、鏡餅！右奥に見えるはコタツ(今年も出しました)



←
コ
タ
ツ

ご家族とお出かけになられた利用者さんも数名いらっしゃりいつもより人数は少なかったのですが、その分密に過ごしました。雑煮のお餅に代わる芋餅作りもあり、正月といえどもいつも通り家事はしっかりなされてました。初詣もしっかり行きましたよ！



そして三が日を過ぎたふれあいの家。ちょっと画像ではわかりにくいのですが、筆ペンで今年の目標を書きました。「いい人が見つかりますように」・・・
(利用者YさんとスタッフSにより 2 枚)

はい、今年こそお互い頑張りましょう(笑)。

今年もアカシアの家・ふれあいの家を宜しくお願いします！ <寺崎 織絵>



年末年始のドタバタ劇

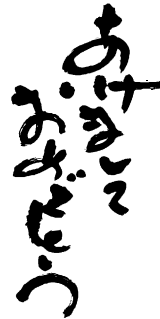
※デイサービス「ふれあい倶楽部」※

今回は、我がふれあい倶楽部の年末年始ドタバタ劇をお話したいとおもいます。
クリスマス会が終わると同時に年末の大掃除やお正月準備が始まりました。ふれあい倶楽部は 12 月 30 日～1 月 3 日までお正月休みに入るため 26 日～29 日までは慌ただしく、まさに師走でした。

最近では日本の文化が薄れ、お正月を始めとして四季折々の行事が減ってきておりますが、長年の文化を思い起こして頂くためにも年賀状書き、鏡餅作り、大掃除、お正月飾り付けと活動の中でそれぞれに参加して頂きました。

年賀状は利用者さまから御家族へ普段の感謝と御挨拶を書いていた見本を見ながら書ける方、筆ペンでスラスラ書ける方、字は苦手だからとスタンプを使って素敵な年賀を作成していました。宛名書きも懸命に記入され、届いたかどうか…(笑う)

大掃除は窓を拭いたり食器棚から食器を全て出して洗い、棚もきれいに拭きました。普段掃除できない部分も皆さんきれいにして、自分たちで選んで購入したお正月飾りを飾る事が出来ました。掃除嫌いな方も年末だけは・・と少しは参加して下さいたのが印象的でした。鏡餅作りでは餅つきこそ出来なかったものの、餅つき機を頂いたので餅だけは機械でつき、白い粉にまみれながら、ま〜るく形よく作る方、凸凹の方、形は様々でしたがキンカンを乗せてしまえば「鏡餅」。それぞれ持ち帰って頂いて自宅に飾って下さったかな？事業所用にもいくつか作り、飾っていましたが、鏡開きで見事に粉々となり、いまでは皆さんのお腹の中に・・



年が明け、「おめでとうございます」の挨拶と共に年賀状が届いたか、家族の反応はどうだったか等の話で盛り上がる事が出来、ご家族からも「年賀状もらえるなんてビックリした」「字が上手だった」などの喜びの声が届きました。年始は初詣から始まり、江戸川の土手にて凧揚げ、手作りの福笑いや丹後小学校から頂いた手作り絵馬に今年の目標などを書いたり、カルタ取りなどお正月気分を味わいました。

初詣は近くの丹後神社へ甘酒を持って寒い中でしたがお参りし「カラン コロン」と鈴を鳴らし、手を合わせて何を願ったのかな・・。お参りよりも甘酒・・格別においしかったようです。

最近見かけなくなった凧揚げ、なかなか上手く上がりませんが一瞬でも上がると手をたたいて喜んでいました。風のある日には利用者さんの小走りで空高く舞い上がりました。風がない日の凧上げはスタッフやボランティアさんがなんとか上げようと走りまわりへとへと・・凧揚げは風のある日が良い様です(笑)



今年も早稲田周辺を賑やかにウロウロと(笑う)散歩、買い物でお会いするかと思いますが是非是非声をかけて頂きたいとおもいます。

<阿部 政枝>

<編集後記にかえて>

恩送り

今年は例年になく厳しい寒さが続き、東北や北陸地方では大雪による事故や車が雪に阻まれ身動きが出来ないという状況が続いています。鳥インフルエンザの広がり。宮崎、鹿児島県境にある霧島山系・新燃岳での爆発的噴火。幼児の虐待、無差別殺人など背筋が寒くなる事件も多発しています。国会では、私たちの暮らし向きに目を向けた政治ではなく、自分達の身を守るために必死で右往左往している姿や発言を聞くと、いったい誰のための何のための国会であり政治家なんだ！！と怒りがわいてきます。

そんな毎日の中で、心が温くなる出
画のタイガーマスクの主人公・伊達直人
ちへの贈り物です。ギスギスした報道が
メンテーターの表情が穏やかなのが印



来事が広まっています。それはご存知、漫
などを名乗る方々からの養護施設の子供た
多い中で、テレビでこの事をコメントするコ
象的です。

この事を題材にした毎日新聞コラム<余録>の「善意の連鎖反応」と題した記事が目
留まりました。それを紹介します。



「 善意の連鎖反応 」

井上ひさしさんは中学生時代、岩手県一関市の本屋で国語辞書を万引きしようとして店番のおばあさんに見つかった。「そういうことをすると、私たちは食べていけなくなるんですよ」。おばあさんは厳しくたしなめ、薪割りを命じた。罰だと思って井上さんは薪割りをした。するとおばあさんは国語辞書を渡していった。「働けば、こうして買えるのよ」。おばあさんは僕に、まっとうに生きることを教えてくれたんです」。井上さんは「返しても、返しきれない恩義」と振り返っている。

40年以上の歳月の後、大作家となった井上さんは一関で何度かボランティアの文章講座を開く。それを井上さんは「恩送り」と言い表現している。誰かから受けた恩を直接返すのではなく、別の人に送る。その人がまた別の人に渡す。恩がぐるぐると世の中を回るのだ。「井上ひさしと141人の仲間たちの作文教室」(新潮文庫)が記す話である。

こう聞けば、米映画「ペイ・フォード」を思い起こす方もいよう。あれは自分が受けた厚意をその人に返すのではなく、別の3人に回すことを考えついた少年が世界を変える物語だった。

漫画タイガーマスクの主人公・伊達直人を名乗る児童養護施設への贈り物が相次いでいる。孤児だった覆面レスラーが同じ環境の子供らのためにファイトマネーを投じる……40年前の「恩送り」の物語である。それがなぜか今、人々の心を奥深くから揺り動かすのだ。

「恩送り」は江戸時代によく使われた言葉だという。人々の間で受け渡される思いやりが増幅して世界を変えていく。初夢に終わらせたくない善意の連鎖反応だ。

キーワードは「恩送り」です。今の社会でとつても大事な事を学んだように思います。その事を意識し実行できれば少なくとも今よりは自分本意でなく、人や社会を思いやる豊かさが生まれるのではないのでしょうか。

<地域活動支援センターパティオ 長島喜一>